平成 30 年 12 月 20 日

大学院学生各位
To All Graduate Students

平成 30 年度
基盤医学特論　開講通知
Information on Special Seminar Tokuron 2018

題目:「腎性貧血の診断と治療 PREDICT 研究からの考察」
Title: Diagnosis and treatment for renal anemia
An insight from PREDICT study

言語(Language): 日本語(Japanease)

講師: 今井 圓裕 先生
(中山寺いまいクリニック・院長、
藤田保健衛生大学腎内科・客員教授)

Teaching Staff : Enyu Imai , M.D.

末期腎不全に合併する腎性貧血の治療にはエリスロポエチンを使用することが基本となっている。エリスロポエチンが 1990 年に発売されたことにより腎性貧血が治療できるようになり、透析患者の QOL は改善した。その後 CKD 患者の腎性貧血を治療する上で、至適 Hb 値を決定するための大規模な臨床試験が行われた。その結果は、Hb13g/dL 以上のいわゆる正常化を目指した治療群で心血管疾患の発症が増加する可能性が示唆された。従って、対照群の Hb 値である 10-12g/dl を腎性貧血の治療目標とするように国際的なガイドラインで定められている。一方、わが国で行われた臨床試験では、Hb11-13g/dL を目標とする高 Hb 群が Hb9-11g/dL に設定した低 Hb 群より腎保護作用が示された。その結果、わが国のガイドラインでは目標 Hb 値は 11-13g/dL とされている。我々は、海外と比較して高く設定されている目標 Hb 値を検証するために、多施設共同ランダム化比較試験、PREDICT を行い、Hb11-13g/dL に腎性貧血の目標を定めることの妥当性を検討した。本講演ではこの結果を中心に講演する。また、鉄剤の使用に関しても触れたい

日時:平成 30 年 12 月 20 日(木) 18:00～19:30
Time: 18 :00～19:30,December 20(Thu), 2018
場所 : 基礎棟 会議室 1 (学務課前)

どなたでもご参加いただけます。事前連絡は不要です。No registration required.

＊ 関係講座・部門等の連絡担当者:

病態内科学講座 腎臓内科　　丸山 彰一 Tel:744-2182 (内線 2182)

Contact: Department of Nephrology (ext. 2182)

医学部学務課大学院係 Student Affairs Division, Graduate School of Medicine